

いのち
『ミニ・生命のメッセージ展』の

学校開催を！

～すべての学校にいま伝えたい～



発行:NPO 法人 KENTO

目 次

★あいさつ 1
★メッセンジャーとは 2
★人型オブジェの説明 3
★「in 曽爾小学校」の報告・感想文 4
★奈良新聞記事 7
★「in 曽爾小学校」の写真 8
★全国開催の足跡 10
★奈良県下及び国会開催時の写真 12

ミニ・生命のメッセージ展の学校開催を！

初めまして。奈良県を中心に活動をしています NPO 法人 KENTO です。
(KENTO・・・K 交通事故を E 永遠に N 無くす T 友達の O 輪)

昨年6月、奈良県文化会館において『生命のメッセージ展 in 奈良 2010』(サブタイトル：すべての学校にいま伝えたい)を3日間にわたり開催しました。予想を超える沢山の方々が会場に足を運んで下さいました。

すべての学校に『生命の重さ・かけがえのなさ』を伝えたいという願いが一步前進できました。ご来場下さいました皆様、また取組み作品等を快くご提供下さいました学校関係者の皆様方には、この紙面をお借りして心よりお礼を申し上げます。

『生命のメッセージ展』は、犯罪・事故・いじめ・医療過誤・一気飲ませなどによって、理不尽に生命を奪われた犠牲者が主役のアート展です。ある日、元気に家から出かけ、二度と戻れなくなった彼らが、会場を訪れて下さる一人ひとりに、生きられなかった自分達の現実を通して、『今生きている生命のかけがえのなさ』を真摯に語りかけます。

犠牲者が主役の展示ですが、怖れ・暗さといったものではなく、会場内に彼らの等身大の人型オブジェが設営されるや、これまで誰も為し得なかった静かな、エネルギーに満ちた「生命」を伝える様々なメッセージが、声なき声で語りかけられます。

この展示を奈良県下の幼・保育園を始めとする小・中・高校、短・大学、警察学校、自動車学校等で、「生命の尊さを伝える教育」として、ミニ形式(縮小版)で開催できればと考え続けています。理由は、学校内での開催には次の三つの利点が考えられるからです。

- 1) 教職員・保護者・生徒(学生)の三者が校内で一緒に見学できる。
- 2) 「生命の尊さ・かけがえのなさ」という、取組みが比較的困難な話題を三者が同時に共有することで、共に考え、話し合いができる。
- 3) ミニ形式の開催は設営時間・運送経費の負担を小さくできる。

昨年の奈良県文化会館での展示はフル形式で、会場内に140数名の
人型オブジェが並びました。その直後の6月9日には奈良少年刑務所にて、
矯正教育の一環として同じくフル形式の展示が講堂の中で実施されました
。続く9月30日、県下で初の小学校での展示が曾爾村立曾爾小学校にて
同校体育館内でミニ形式（30名の人型オブジェ使用）で実施されました。

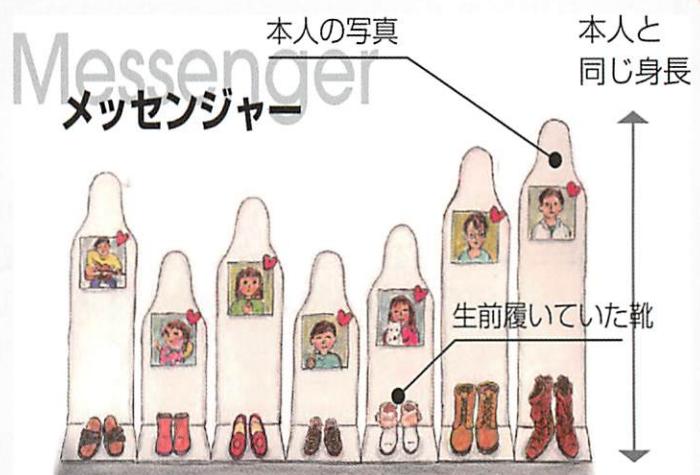
実施にあたり、両所では刑務官・先生方が事前の準備に熱心に取組んで下
さり、開催当日は生命のメッセンジャー達（人型オブジェ）に出会った誰の中
にも「自分の生命、周りの人の生命」について考え・感じるという行動が
生まれ始めました。開催した意義はたいへん大きく、一過性で終わらず今
尚、各人の中で温め続けられているとの報告を頂くことができました。

これら貴重な成果を基にし、この度「小さな親切」運動奈良県本部様のご
支援の下『ミニ・生命のメッセージ展』の説明を分かりやすく冊子として
仕上げました。多くの先生方・PTA・学校関係者の皆様方にご高覧いただ
ければ幸いに存じます。

メッセンジャーとは

犯罪・事故・いじめ・医療過誤・
一気飲ませなどによって理不尽
に生命を奪われた、犠牲者ひとり
ひとりの等身大の人型オブジェ
はメッセンジャーと呼ばれ、その
胸元には本人の写真や家族の言
葉を貼り、足元には「生きた証」
である靴を置いて、命の大切さを
訴えています。

無念にも亡くなり、生きたくても
生きられなかったメッセンジャー
の「未来につながる命」を守る
ための想いを感じて下さい。



※ メッセンジャーはNPO法人いのちのミュージアム
が保管及び管理をしています。同法人については
<http://inochi-museum.or.jp/> をご参照願います。

人型オブジェの説明

【事件等の概要】

…19歳青年の暴走運転、制限速度40キロのところを110キロの猛スピードによりスピンし対向車線にはみ出し、私の車両に激突し、愛する次女未来(みく)の幼い命を奪われました。…座席の下にうずくまる未来を抱き上げガラスを肘で割り助けを求めました。あの時の未来の温もりは今も私の手に残り消えることはありません。…



生前の背丈
と同じ高さ
の白い人型
のオブジェ

家族が選ん
だ大切な生
前の写真

【家族のメッセージ】

…あの朝シャボン玉をしました。♪シャボン玉とんだ、屋根までとんでこわれてきました♪ シャボン玉を追いかけて笑っていた未来。この数時間後未来は命を奪われてしまいました。

…私たち家族は、あの時から時間が止まっています。…



遺品の靴

「ミニ・生命のメッセージ展 in 曽爾小学校」

(曾爾小学校 梶岡俊之先生ご寄稿)

曾爾小学校では、PTA行事として人権教育講演会を開催し、児童と保護者が一緒に参加できる内容を毎年企画しています。生命のメッセージ展は昨年9月に実施し、児童49名と保護者42名が参加しました。

開催のきっかけは、奈良市で行われた生命のメッセージ展を見学したことでした。児童と保護者が一緒にメッセージ展を見ることは、命の大切さを学校と家庭で考えるまたとない機会となると考えました。PTA人権教育部の賛同を得て、開催が決まりました。

今回はミニ開催ということで、メッセンジャー人型パネルは児島さんの息子さんをはじめ、子どもや青年を中心に30体貸し出してもらいました。何度かの打ち合わせの後、東京から宅配便でメッセンジャーが届きました。

29日（水）	展示作業	児島さんと事務局橋本さん、本校職員の5名で約2時間 放課後、各担任は展示されたメッセンジャーを事前に見学
30日（木）	午前中	学年ごとにメッセンジャーと対面 低学年は添えられている家族 からのメッセージを担任が解説しながら見学
	午後	保護者が展示を見学（25分）
	講演会	「つながっていく命」児島早苗さん（40分）児童、保護者

いよいよ児童がメッセンジャーと対面するときが来ました。パネルを見るだけで理不尽に亡くなった人の思いを受け止めることができるだろうか。低学年に理解できるだろうか。このような心配もありましたが、会場に入った子どもたちは黙ってパネルと対面していました。一人静かにメッセージを読んでいる子。じっと写真を見つめる子。子どもの人型パネルと背比べをする子。それぞれが集中して対面していました。時折、傍らにいる児島さんが児童に語りかけてくれます。最後に、赤い毛糸を一本一本繋いで、命の大切さを共有していました。

保育園児が見学にきました。保育士の説明をじっと聞いて、同じぐらいの年齢の子どもたちの死を感じ取っていました。中学校の教師も見学に来て、ぜひ生徒に見せたかったと残念そうでした。保護者は子どもを亡くした親の無念を受け止めながら、一枚一枚のパネルと対面していました。

児島さんの講演が始まりました。息子の健仁さんが交通事故で緊急入院したこと。何としても生きてほしいと願う母の悲痛な思い。それにもかかわらず14日後に亡くなつたこと。健仁くんの遺品や作文を紹介しながら話ををしていただきました。食い入るように見つめて聞いている子ども。目頭を熱くして聞き入っている保護者。会場のすべての人が、「命の重さ、命の尊厳」について考える時間となりました。

生命のメッセージ展が終わってしばらくしても、廊下に掲示してある全校生の感想文を立ち止まって読んでいる姿が見られました。1月の人権作文発表会では、5年生の児童がメッセージ展で命の重さについて考えたことを発表しました。その発表に対して、6年生から「私もあれ以来、人に『死ね』などの言葉は絶対言わないようにしています。」と感想を述べていました。

メッセージ展で受け止めた「命の大切さ」は子どもの中にちゃんと生き続けていました。

半年ほど経ったPTAの集まりでも、メッセージ展は印象深かったと話題に上りました。また、PTA広報紙に掲載されたメッセージ展の記事を読んで、もう一度命の大切さを確かめてもえたのではないかと思います。広報紙は曾爾村の全家庭に配布しました。

メッセージ展で、「死の現実」と直面した衝撃は、子どもにとっても大人にとってもたいへん大きいものでした。

【児童の感想】

- わたしよりちいさい子がじけんやじこでなくなっていることをしって、びっくりしました。みんなもっと生きたかったとおもいます。やっぱりうんてんやよそみうんてんはやめてほしいです。(1年生)
- とてもとてもぼくはくやしくて、かわいそうだと思いました。ぼくは車にのるときシートベルトをしっかりします。ぼくも交通ルールを守ります。(2年生)
- 子どもが死んだ話を聞いて、ぼくは自分がそうなったり、友だちがいなくなったらどうなるのかなと考えました。考えたけど想像できません。こじまさんの話を聞いていたとき、悲しそうでした。こじまさんを見ているととてもかわいそうでした。命はたった一つしかないということがわかりました。(4年生)
- ぼくは話を聞いて、いろいろなことを学びました。展示していたメッセンジャーを見てとても感動しました。ボードには、将来の夢などを書いていました。まだ若いのにかわいそうだなあと思いました。ぼくにも(空手で優勝したい)という夢があります。これから夢を大事にしていきたいです。(5年生)

【保護者の感想】

- 今回、はじめて(ミニ・生命のメッセージ展)見せて頂きました。等身大のパネルや写真、くつなど、本当にその子(人)の存在がそこに感じられ、メッセージも伝わってきました。母親として、子どもを失う苦しみを考えるとつらく、すべて見てまわることができませんでした。でも、今、子どもが生きているという事実、その奇跡を改めて感じ、感謝の気持ちで一杯です。今日は帰ってすぐ、子どもを抱きしめたいと思いました。本当にありがとうございました。このような活動を広め、続けていってほしいと思います。
- 一人一人の命の重みを感じました。実際に亡くなった人の写真や、亡くなったときの身長、履いていた靴を見て、とても悲しく切ない気持になりました。今日の講演を聞いて、子どもたちの心にも何か響いたものがあったと思います。
- メッセンジャーを見て、ここにあるパネル、命の叫びは、ほんの一部でしかないだろうと思いました。家族を亡くされ、児島さんと同じ思いをされているご家族や友人がたくさんおられて、今もなお苦しんでおられるかと思うと心が痛みます。私も車を運転しますが、今以上に安全につとめ事故をおこさないように、また被害者にならないように気をつけていきたいと思いました。

生命のメッセージ展から

五年生

みんなは、「死ね」という言葉を使ったことがありますか。

わたしは、友達に向かって「死ね」という言葉を何回か言ったことがあります。どんなときにもそんな言葉を使つたかというと、例えば、けんかしたときついカツとなつて言つてしましました。そんなとき「死ね」と言い放つたわたしの一言で相手をとてもおびつけてしまいました。相手の落ちこんだしょんぼりとした顔を見ていると（しまつた）と後かいしたことを思い出します。

そんなとき、生命のメッセージ展がありました。

こじまさんという人のお話を聞きました。

こじまさんは、むすこさんを交通事故でとつ然になくなされました。むすこさんがなくなつたときのお話を聞きました。

「こじまさんは、話のなかで「息子の命を生かすこと」「同じ苦しみをたつこと」を胸に今日もこじまさんと同じ苦しみをもつている人たちといつしょにたたかい続けているということを教えてくださいました。

こじまさんは、むすこさんが子どものときに遊んだスコップやバケツなどを持ってきてくれました。その道具を見て、わたしは、今でもこじまさんは息子さんのことが大好きなんだなあとと思いました。わたしは、こじまさんのお話を聞きしてとつもつり

い思いをされたんだなあと思いました。なみだを流すほど心のおぐがとてもさびしかったと思います。

こじまさんのお話を聞いて、わたしは、気楽にだれかに向かって「死ね」と言つたら本当にその人は、（自分は必要のない人間なんだ）と思うかもわかりません。もし、わたしが「死ね」と言われたらやう思うからです。だから、わたしは、これからは絶対に「死ね」と言つ言葉を使つたらダメだと思いました。

もう一つ、「死ね」と言われた子の親も心がチクチクするほどつらい思いをするかもわかりません。言われた子は自殺するかもわかりません。そうしたら、親はもっと悲しい気持ちになります。「死ね」という一言は人を殺す武器と同じだなあとと思いました。

こじまさんのお話の中ではすれられないことがあります。それは、むすこさんの将来の夢のことです。

むすこさんは、大きくなつたら宇宙で働く人になりました。宇宙から地球を美しくする仕事をしたかったそうです。宇宙から地球を美しくする仕事をしたかったそうです。

わたしにも夢があります。その夢をとつ然うばわれるとしてもつらいです。

わたしはこれから今までとちがつて悪口を言わない自分に直していきたいです。

わたしはこれから人をきずつける言葉を絶対に言いません。そして自分も家族もまわりの友達を大切にしていきたいです。

命

重み子どもたちに

今を生きられて幸せ／友達に悪口言わない

同展は「メッセージ展（ミニ版）」と呼ぶ人型オブジェに遭難の言葉など

ヤー」と呼ぶ人型オブ

ジエに遭難の言葉など

を添え、足元には愛用

の靴を置く。平成13年

にスタートし、各地で

80回以上開催。児島代

3回目の同展を梶岡俊

之教頭が見学したこと

がきっかけで実現。

表は7年前に神奈川県

児島代

が見学したこと

がきっかけで実現。

「自分より小さな子

が見学したこと

がきっかけで実現。

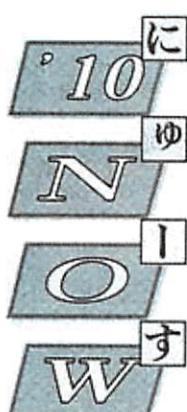
曾爾小でメッセージ展



クラスメートとともに「メッセージジャー」と出会う
子どもたち=先月30日、曾爾村長野の曾爾小学校

県内初、教育現場で開催

内での会場で、交通事故で亡くなった長男・健仁さん（当時18歳）のオブジェの前に立ち尽くす小学生の姿に「小さな子どもにも、ちゃんと伝わっている」とともに体育館の展



が悲しい事件で亡くなっていた。自分は今、生きられて幸せ」「私は決して友達に、ウザイとか死ねとか言わない」。クラスメート

してもらつ低学年、自分で説明を読めるようになる中学年の子どもたちも、それぞれに「二つの命がどれほど大切で、失われた時の悲しみがいかに深いか」を感じ取った。

「年齢幅の広い子どもたちの反応に少しの危くもあつたが、そんな心配は無用だった」と梶岡教頭。

児島代表は「まさかまな人が訪れる会場も大切。でも、子どもたちには、学校でクラスの仲間とともに体験することに大きな意義がある」と実感した」と話した。

学年超え「伝わった」

みんなが訪れる会場も大切。でも、子どもたちには、学校でクラスの仲間とともに体験することに大きな意義がある」と実感した」と話した。

■曾爾小学校で開催された『ミニ・生命のメッセージ展』の様子 ■

2010年9月30日



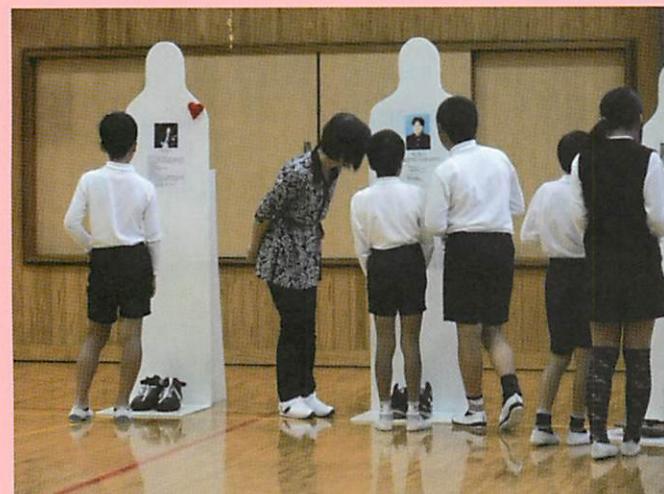
【会場設営】前日午後、体育館にメッセンジャー30命を5人で約2時間の設営



【教職員見学】メッセンジャー30命の資料を手に



【生徒見学】最初に先生の説明に聴き入り見学



【メッセンジャーの説明を自分で読み始める】



【隣の幼稚園から園児来場】



【先生と生徒が対話する】



【遺族の話に耳を傾ける】



【一人でメッセンジャーと向き合う】



【メッセンジャーと背くらべしている生徒】



【つながっていく生命（いのち）のテーマで遺族の講演に、教職員・生徒・保護者が共に参加】



【生徒が立ち止り感想文を読んだ廊下の掲示】

生命のメッセージ展の足跡

※この記録は、「生命のメッセージ展」フル形式開催のものです。

年	番号	開催日	開催都市	会場
2001年	第1回	3/24	東京都中央区	東京駅（八重洲口広場）
	第2回	7/7~7/8	静岡県浜松市	浜松駅北口「フォルテガーデン」
	第3回	8/11~8/19	神奈川県座間市	市民会館「ハーモニーホール座間」
	第4回	10/14	大阪府門真市	なみはやドーム
	第5回	10/26~10/28	奈良県生駒市	生駒市中央公民館
	第6回	11/10~11/11	奈良県大和郡山市	国立奈良工業高等専門学校
	第7回	11/23~11/25	大阪府阿倍野区	阿倍野区役所ホール
2002年	第8回	2/1~2/3	山口県防府市	市地域交流センター「アスピラート」市民スペース
	第9回	2/8~2/11	神奈川県横浜市	横浜そごう9階 市民スペース
	第10回	5/17~5/19	北海道札幌市	「かでる2・7」道民活動センター
	第11回	7/16~7/21	神奈川県川崎市	川崎市教育文化会館
	第12回	8/23~8/25	栃木県宇都宮市	とちぎ福祉プラザ
	第13回	10/25~10/27	千葉県千葉市	千葉県総合教育センター
	第14回	11/29~12/1	秋田県秋田市	秋田県社会福祉会館
2003年	第15回	2/18	東京都千代田区	衆議院第一議員会館
	第16回	3/11~3/16	高知県高知市	高知市文化プラザ「かるぼーと」
	第17回	5/16~5/18	長崎県長崎市	長崎ブリックホール
	第18回	8/1~8/3	熊本県熊本市	熊本県民交流館「パレア」
	第19回	10/11~10/13	滋賀県大津市	滋賀県立県民交流センター「ピアザ淡海」
	第20回	11/21~11/23	長野県長野市	長野市「もんぜんプラ座」
	第21回	3/5~3/7	愛知県名古屋市	中小企業振興会館吹上 展望ホール
2004年	第22回	4/23~4/25	静岡県静岡市	静岡県男女共同参画センター 「あざれあ」
	第23回	6/11~6/13	青森県青森市	男女共同参画プラザ 「アウガ」
	第24回	10/9~10/10	和歌山県和歌山市	和歌の浦 アート・キューブ
	第25回	12/7~12/12	東京都新宿区	早稲田大学戸山キャンパス学生会館
	第26回	1/28~1/30	山口県防府市	市地域交流センター「アスピラート」市民スペース
	第27回	3/25~3/27	三重県津市	アスト津 4Fホール
	第28回	5/13~5/15	岐阜県高山市	高山市民文化会館
2005年	第29回	6/17~6/19	広島県広島市	広島県民文化センター
	第30回	10/8~10/10	群馬県高崎市	高崎シティギャラリー
	第31回	12/6~12/11	東京都新宿区	早稲田大学戸山キャンパス学生会館
	第32回	1/12~1/14	三重県鈴鹿市	鈴鹿国際大学
	第33回	1/20~1/22	三重県桑名市	桑名市立益世小学校
	第34回	2/18~2/19	茨城県水戸市	茨城県総合福祉会館
	第35回	5/16~5/18	東京都千代田区	憲政会館 衆議院第二議員会館
2006年	第36回	8/18~8/20	栃木県宇都宮市	栃木県総合文化センター2F
	第37回	9/15~9/17	東京都稻城市	稻城市立中央図書館
	第38回	10/6~10/8	宮崎県宮崎市	宮崎市民プラザ
	第39回	11/28~12/3	神奈川県平塚市	平塚市美術館
	第40回	12/4~12/9	東京都新宿区	早稲田大学戸山キャンパス学生会館
	第41回	7/14~7/17	大阪府大阪市	南港ATCITM
	第42回	7/21~7/22	東京都千代田区	明治安田生命 丸の内マイプラザ
2007年	第43回	9/7~9/9	埼玉県鶴ヶ島市	富士見公民館
	第44回	10/5~10/8	福岡県前原市	前原市立前原小学校
	第45回	11/16~11/18	滋賀県近江八幡市	近江八幡男女共同参画センター
	第46回	12/9~12/14	東京都新宿区	早稲田大学戸山キャンパス学生会館

2008年	第47回	1/12~1/14	沖縄県那覇市	てんぶす那覇
	第48回	2/22~2/24	愛知県弥富市	市立白鳥小学校
	第49回	3/4~3/5	埼玉県川越市	川越少年刑務所
	第50回	3/22~3/29	埼玉県川口市	川口市中央図書館7F メディアセブン
	第51回	6/6~6/8	北海道札幌市	男女共同参画センター エルプラザ
	第52回	7/16~7/20	群馬県前橋市	群馬県庁ロビー
	第53回	8/26~8/27	千葉県千葉市	千葉市文化センターホール
	第54回	9/12~9/14	島根県出雲市	ビッグハート出雲
	第55回	10/11~10/12	石川県金沢市	めいてつエムザ
	第56回	10/24~10/26	愛媛県松山市	松山市総合コミュニティーセンター
	第57回	10/31~11/3	東京都日野市	日野市立第六小学校
	第58回	11/15~11/16	福岡県福岡市	都久志会館
	第59回	11/18~11/20	京都府京都市	京都産業大学
2009年	第60回	12/5~12/7	大阪府大阪市	大阪ABCホール
	第61回	12/4~12/9	東京都新宿区	早稲田大学戸山キャンパス学生会館
	第62回	1/14~1/16	沖縄県那覇市	琉球大学
	第63回	1/23~1/24	千葉県市原市	市原刑務所
	第64回	2/25~2/26	東京都八王子市	多摩少年院
	第65回	3/20~3/22	三重県津市	三重大学
	第66回	4/25~4/26	大分県大分市	大分県庁
	第67回	8/14~8/16	群馬県桐生市	桐生市文化会館
	第68回	9/25~9/27	愛知県岡崎市	小豆坂小学校
	第69回	11/1~11/3	三重県伊勢市	皇學館大学
	第70回	11/7~11/9	兵庫県加古川市	加古川刑務所
	第71回	11/13~11/14	佐賀県佐賀市	アバンセ／県民ホール
	第72回	11/22~11/23	福島県福島市	福島市民会館
2010年	第73回	11/24~11/25	宮城県仙台市	青葉女子学園
	第74回	2/13~2/14	福島県郡山市	郡山市労働福祉会館
	第75回	2/20~2/21	福島県いわき市	いわき・ら・ら・ミュウ
	第76回	2/25~2/26	大阪府大阪市北区	関西テレビ
	第77回	3/7	三重県四日市市	四日市市文化会館
	第78回	3/12~3/14	徳島県徳島市	シビックセンター徳島
	第79回	4/2~4/4	福井県敦賀市	きらめきみなど館
	第80回	5/8~5/9	栃木県大田原市	国際医療福祉大学
	第81回	5/22	宮城県多賀城市	仙台育英学園（多賀城校舎）
	第82回	5/31~6/2	神奈川県横浜市	かながわ県民センター
	第83回	6/4~6/6	奈良県奈良市	奈良県文化会館
	第84回	6/9	奈良県奈良市	奈良少年刑務所
	第85回	9/17~9/18	三重県四日市市	暁学園高等学校
2011年	第86回	10/9	福井県福井市	福井県国際交流会館ホール
	第87回	10/12~10/13	和歌山県和歌山市	和歌山刑務所
	第88回	10/16	大阪府岸和田市	岸和田 浪切ホール
	第89回	11/06~11/07	三重県鈴鹿市	鈴鹿医療科学大学
	第90回	11/17~11/18	東京都八王子市	多摩少年院
	第91回	11/26~11/28	栃木県宇都宮市	栃木県議会議事堂
	第92回	12/03~12/05	山口県山口市	山口市民会館
	第93回	12/10~12/12	岡山県岡山市	岡山市デジタルミュージアム
	第94回	12/17~12/19	静岡県静岡市	静岡市民ギャラリー展示室
	第95回	1/9	岡山県岡山市	岡山ドーム
	第96回	2/27	三重県鈴鹿市	鈴鹿市民会館・展示室
	第97回	3/05~3/06	京都府京都市	京都弁護士会館
	第98回	9/09~9/11	福井県敦賀市	きらめきみなど館
	第99回	9/24~9/25	東京都日野市	百草台小学校体育館
	第100回	10/03~10/06	東京都港区	日本財団ビル
	第101回	10/14~10/16	山形県山形市	TUYフレンドパーク
	第102回	10/28~10/30	福島県福島市	福島大学

■『生命のメッセージ展 in 奈良 2010』■

2010年6月4~6日



【友達とメッセンジャーに見入る】



【家族で来場】

■『生命のメッセージ展 in 奈良少年刑務所』■

2010年6月9日



【生命のメッセージ展の赤い毛糸玉につなぐ】



【刑務所内の講堂で受刑者を待つメッセンジャー】

■『生命のメッセージ展 in 奈良高専学園祭』■

2001年11月10~11日



12 【会場は教室2部屋 運営を学生が担った】

■『生命のメッセージ展 in 国会』■

2006年6月16~18日



『Part I』2003年 & 『Part II』2006年開催

『ミニ・生命のメッセージ展』の学校開催を！

～すべての学校にいま伝えたい～

2011年10月14日 発行

著者 NPO 法人 KENTO ホームページ:<http://kento.holy.jp/>

●本書へのご質問、「ミニ・生命のメッセージ展」のお問合せは
下記まで願います。

事務局:〒631-0831 奈良市西大寺宝ヶ丘7-29 橋本 千恵子

E-mail:kento_net81@hotmail.com 小島 早苗

携帯電話:090-4012-2874 小島 早苗

●本書の利用についてのご注意

本書の全部または一部を無断で複写複製（コピー）する事を禁じます。



NPO 法人 KENTO